

「外力なし」の場合の損害割合シミュレーション

表：浸水深別の損害割合

	部位名称	構成比 (%)	損害割合 (%)			
			1.0m 以上 1.8m 未満	0.1m 以上 1.0m 未満	0.1m 未満	(床下)
1	屋根	15	0	0	0	0
2	柱（又は 耐力壁）	15	0	0	0	0
3	床（階段 を含む。）	10	5	4	3	0
4	外壁	10	4	4	4	0
5	内壁	10	6	6	0	0
6	天井	5	0	0	0	0
7	建具	15	7	6	2	0
8	基礎	10	1	1	1	1
9	設備	10	8	5	5	0
	合計	100	31	26	15	1

※ 各損害割合は、面積率及び重み付け計算後の値。

(3) 床 (構成比 10%)

区分	損害割合	損傷程度(1 階の損傷)
1.0m～ 1.8m	5	IV (20%) 汚泥除去のための床の取り外しが必要。 Ⅲ (80%) 床板に著しい浮き、ずれ、剥離、膨張等がみられる。
0.1m～ 1.0m	4	IV (20%) 汚泥除去のための床の取り外しが必要。 Ⅲ (40%) 床板に著しい浮き、ずれ、剥離、膨張等がみられる Ⅱ (40%) 床板に若干の浮き、汚損等がみられる。
0m ～ 0.1m	3	Ⅲ (60%) 畳の機能損失及び床板の著しい浮き、ずれ、剥離、膨張等がみられる Ⅱ (40%) 床板に若干の浮き、汚損等がみられる。
(床下)	0	損傷なし

(参考) 災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料 (損傷程度の例示) (抜粋)

損傷の例示	写真
程度Ⅳ ・ <u>床下に堆積した汚泥を除去するため、床の一部(床板等)の取り外しが必要である(基礎の構造が布基礎又はべた基礎の住家に限る。)</u>	
程度Ⅲ ・ <u>浸水により床板に著しい浮き、ずれ、剥離が見られる。</u> ・ <u>浸水により合成樹脂系床材の剥離が見られる。</u> ・浸水によりフローリング材の層間剥離・浮き上がり、沈下が見られる。 ・浸水により下地材の吸水・膨張が見られる。 ・浸水により畳の吸水・膨張による機能損失が見られる。	
程度Ⅱ ・ <u>浸水により床板の汚損が見られる。</u> ・ <u>浸水により合成樹脂系床材の汚損が見られる。</u> ・浸水により床板に若干の浮き、ずれが生じている。	

(参考) 3市における被害認定調査の例

区分	浸水深	損害割合	損傷程度
1.0m～ 1.8m	2m	7	Ⅳ・100%
0.1m～ 1.0m	0.2m	3	Ⅳ・50%+Ⅱ・50%
0 0.1m	0.03m	3	Ⅲ・20%+Ⅰ・80%

(4) 外壁（構成比 10%）

浸水深	損害割合	損傷程度(1 階の損傷)
1.0m～ 1.8m	4	Ⅲ（100%）仕上材に浸水による汚損等がみられる。
0.1m～ 1.0m	4	Ⅲ（100%）仕上材に浸水による汚損等がみられる。
0m ～ 0.1m	4	Ⅲ（100%）仕上材に浸水による汚損等がみられる。
（床下）	0	損傷なし

（参考）災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料（損傷程度の例示）（抜粋）

損傷の例示	写真
程度Ⅲ ・ 浸水により仕上材の浮き・剥離・脱落が生じている。 ・ 浸水により仕上材の汚損が見られる。 ・ <u>浸水により塗土の半分が剥落している。</u>	

（参考）3 市における被害認定調査の例

区分	浸水深	損害割合	損傷程度
1.0m～ 1.8m	1.18m	3	Ⅲ・100%
0.1m～ 1.0m	0.5m	4	Ⅲ・100%
0 0.1m ～	0.04m	4	Ⅲ・100%

(5) 内壁 (構成比 10%)

浸水深	損害割合	損傷程度(1 階の損傷)
1.0m～ 1.8m	6	V (40%) : 外部と接する内壁は断熱材の機能損失等が見られる。 Ⅲ (60%) : 間仕切り壁で浸水による壁クロスの汚損、表面劣化等が見られる。
0.1m～ 1.0m	6	V (40%) : 外部と接する内壁は断熱材の機能損失等が見られる。 Ⅲ (60%) : 間仕切り壁で浸水による壁クロスの汚損、表面劣化等が見られる。
0m ～ 0.1m	0	損傷なし
(床下)	0	損傷なし

(参考) 災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料 (損傷程度の例示) (抜粋)

損傷の例示	写真
程度 V ・ 浸水により下地材・パネルの吸水・膨張・不陸が見られる。 ・ <u>浸水により断熱材の吸水による機能損失が見られる。</u> (再使用が不可能な程度) ・ 浸水により塗土の大半が剥落している。	
程度 Ⅲ ・ 浸水により仕上塗壁材の剥離等が見られる。 ・ <u>浸水により壁クロスの汚損・表面劣化・剥離等が見られる。</u> (下地材の交換を要しない程度) ・ 浸水により塗土の半分程度が剥落している。	

(参考) 3 市における被害認定調査の例

区分	浸水深	損害割合	損傷程度(実際の浸水深)
1.0m～ 1.8m	1.18m	6	V・100%
0.1m～ 1.0m	0.5m	6	V・50%+Ⅲ50%
0 0.1m ～	0.03m	1	Ⅲ・10%

(7) 建具 (構成比 15%)

浸水深	損害割合	損傷程度(1 階の損傷)
1.0m～ 1.8m	7	V (50%) : 内部建具について浸水によるゆがみや面材の膨張等がみられる。 I (50%) : 外部建具について浸水による再利用が可能な程度の被害がみられる。
0.1m～ 1.0m	6	V (40%) : 内部建具の一部について浸水によるゆがみや面材の膨張等がみられる。 I (60%) : 内部建具の一部及び外部建具について浸水による再利用が可能な程度の被害がみられる。
0m ～ 0.1m	2	V (10%) : 内部建具の一部について浸水によるゆがみや面材の膨張等がみられる。 I (90%) : 内部建具の一部及び外部建具について浸水による再利用が可能な程度の被害がみられる。
(床下)	0	損傷なし

(参考) 災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料 (損傷程度の例示) (抜粋)

損傷の例示	写真
程度 V ・ 浸水により建具が歪み、開閉が不能になっている。 ・ <u>浸水によりドア等の面材が膨張し剥離している。 (再使用が不可能な程度)</u>	
程度 I ・ 浸水による襖・障子・ドアの破損 (表面、格子・縁の洗浄、張り替えによって、<u>再使用が可能な程度</u>)	

(参考) 3 市における被害認定調査の例

区分	浸水深	損害割合	損傷程度(実際の浸水深)
1.0m～ 1.8m	1.18m	9	V ・ 100%
0.1m～ 1.0m	0.2m	8	V ・ 50%+ I ・ 30%
0 0.1m ～	0.03m	0	被害無し

(8) 基礎（構成比 10%）

浸水深	損害割合	損傷程度(1 階の損傷)
1.0m～ 1.8m	1	損傷率 10%：床下汚泥の堆積
0.1m～ 1.0m	1	損傷率 10%：床下汚泥の堆積
0m ～ 0.1m	1	損傷率 10%：床下汚泥の堆積
(床下)	1	損傷率 10%：床下汚泥の堆積

(参考) 災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料（損傷程度の例示）（抜粋）

損傷の例示	写真
・ <u>基礎の構造がべた基礎又は布基礎の住家において、浸水により床下に汚泥が堆積している場合、汚泥による損傷率は 10%とする。</u>	

(参考) 3 市における被害認定調査の例

区分	浸水深	損害割合	損傷程度(実際の浸水深)
1.0m～ 1.8m	1.18m	1	床下汚泥
0.1m～ 1.0m	0.5m	1	床下汚泥
0 0.1m ～	0.04m	1	床下汚泥

(9) 設備 (構成比 10%)

浸水深	損害割合	損傷程度(1 階の損傷)
1.0m～ 1.8m	8	浴室損傷率 20%：破損はあるものの、再使用可能。 台所損傷率 20%：破損はあるものの、再使用可能。 その他 20%：トイレ、洗面の汚損
0.1m～ 1.0m	5	浴室損傷率 10%：汚損。 台所損傷率 10%：汚損。 その他 20%：トイレ、洗面の汚損
0m ～ 0.1m	5	浴室損傷率 10%：汚損。 台所損傷率 10%：汚損。 その他 20%：トイレ、洗面の汚損
(床下)	0	損傷なし

(参考) 災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料 (損傷程度の例示) (抜粋)

損傷の例示	写真
浴室の設備の損傷例 ・ 浴槽が破損し配管が詰まっている (1%)。 ・ <u>浴室のバスタブが破損している。(2%)</u> ・ 浴槽：転倒し、配管が切れ再使用が不可能。(3%)	
台所の設備の損傷例 ・ 台所の流し台が汚損し、配管が詰まっている。(1%) ・ <u>台所の流し台が移動し、損傷は大きい再利用は可能。(2%)</u> ・ システムキッチンのコンロ類が浸水により故障して使用不可能になっている。(3%)	
水廻りの衛生設備 (浴室、台所を除く)、ベランダ等の損傷例 ・ 便器、手洗い：配管が外れている。 ・ <u>洗面：汚損し、配管が詰まっている。</u>	

(参考) 3 市における被害認定調査の例

区分	浸水深	損害割合	損傷程度(実際の浸水深)
1.0m～ 1.8m	1.18m	10	浴室 (30%)、台所 (30%)、衛生設備・ベランダ (40%)
0.1m～ 1.0m	0.5m	5	浴室 (10%)、台所 (10%)、衛生設備・ベランダ等 (20%)
0 0.1m ～	0.04m	5	浴室 (10%)、衛生設備・ベランダ等 (30%)